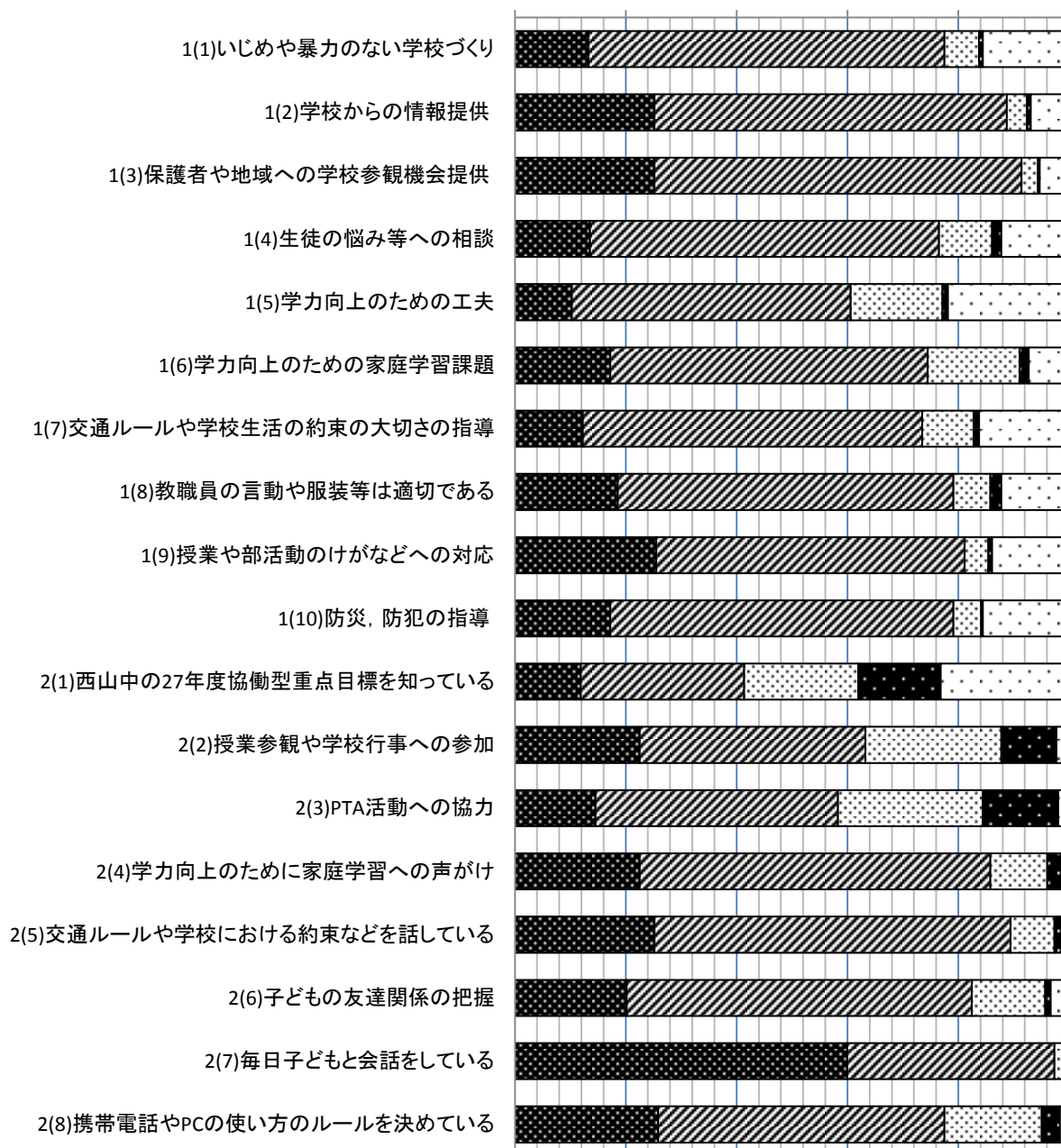


平成28年度学校評価アンケート

保護者アンケート

■よく当てはまる ■だいたい当てはまる □あまり当てはまらない ■当てはまらない □よくわからない

0% 20% 40% 60% 80% 100%



●いじめや暴力対策の指導については、昨年の70%から80%弱までに評価は上がったが、生徒の悩み等の相談対応とともに今後も重点的に取り組む課題としてあげられることがわかる。

●「学力向上のための授業の工夫」「家庭学習の課題」に対する評価が上がったのは、学力向上についての取組が保護者の皆さんにも理解されたものと捉えるが、学力が数字として向上がみられるように今後さらに研究を重ねていくことが必要であるといえる。

●学校からの情報提供や公開の機会を設けていることには90%前後の評価が得られており、良好と捉えられる。

●家庭に関しては「協働型重点目標を知っている」の項目以外は概ね良好という結果であり、家庭における良好な教育活動が展開されていると捉えていることがわかる。特に「毎日子どもと会話をしている」家庭は97%であった。

●授業参観やPTA活動への参加について、なお一層保護者の協力をいただくとともに学校からの情報提供や魅力のある授業展開に取り組むたい。

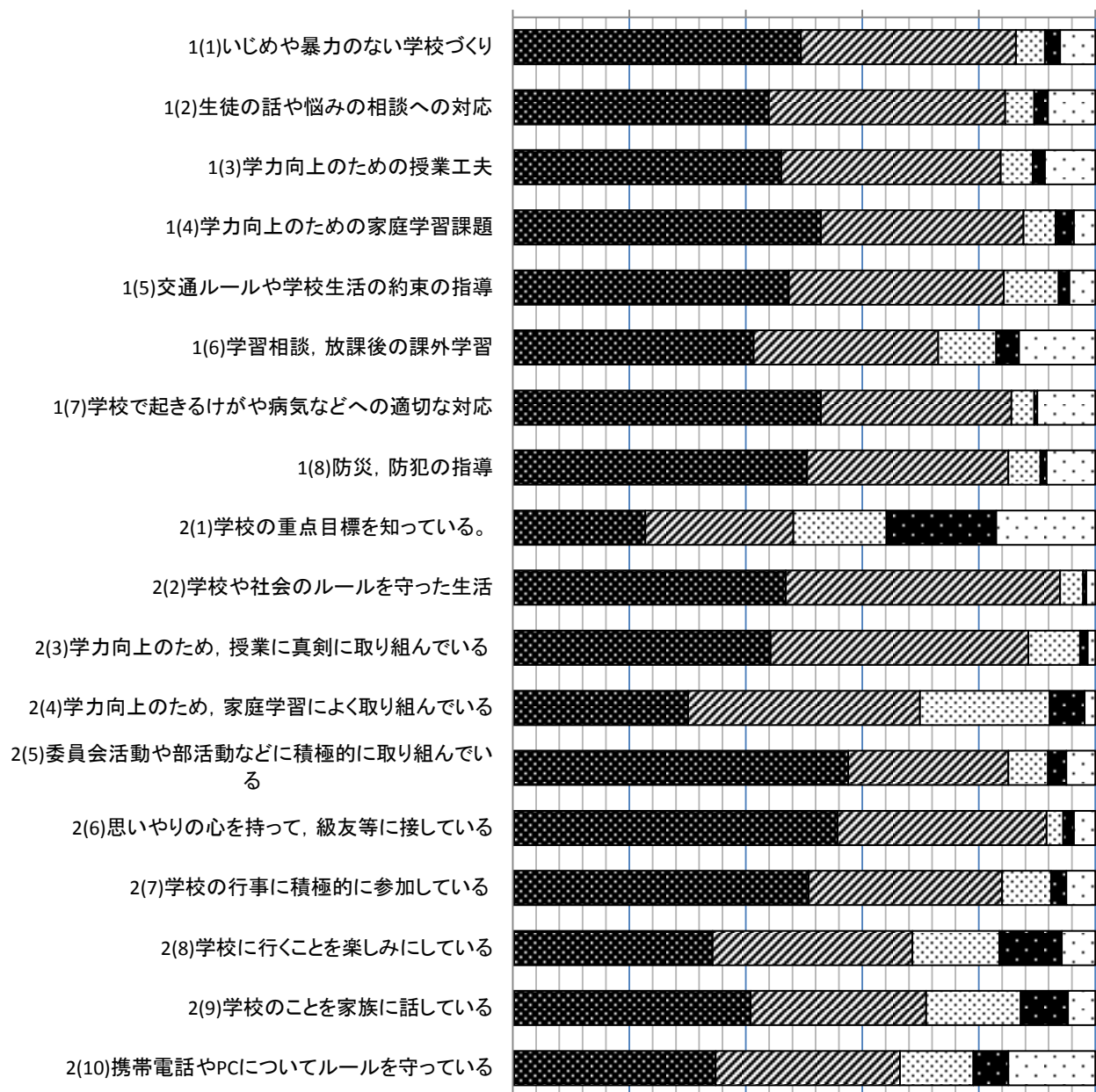
◆これらの結果を、皆様からいただいたご意見を含め、今後の学校教育活動に反映させていただきます。ご協力ありがとうございました。

平成28年度学校評価アンケート

生徒アンケート

■よく当てはまる ■だいたい当てはまる □あまり当てはまらない ■当てはまらない □よくわからない

0% 20% 40% 60% 80% 100%



●「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」までを含めれば概ね生徒は教職員の指導について肯定的な評価をしていることが読み取れる。

●一昨年度から課題としている家庭学習に関して、学校からの課題を含めて、習慣として定着してきた生徒が70%弱まで伸びてきており、今後も引き続き指導や家庭の協力によってさらに伸びるものと期待できる。

●授業に真剣に取り組んでいるという生徒が昨年の78%から88%に上昇し、授業を大事にしているけれど、家庭学習への取組が少ないことが学力向上に繋がらない要因となっている傾向は変わらないと考えられる。

●いじめや暴力に対する取組に対しては約85%の生徒が高評価であるが、約10%の生徒が「わからない」と回答していることから、今後さらに身の回りに潜む危険性を意識させるとともにメールやツイッターなどの危険性について保護者と協力して伝えることが大事である。これは携帯やパソコンについて家庭で決めたルールを守っている割合が65%に留まっていることからいえる。

●昨年度に引き続き、学校の重点目標の認識度が低いので、より具体的に活動の中で示しながら意識させていきたい。